伊豆大島ジオパークをもっと楽しむ！
ガイドツアーのススメ



どうして牛乳煎餅？
あんこさんって何？
なぜここに神社があるの？
なぜ山の上に黒い砂漠地帯ができたの？
なぜゴツゴツした溶岩の上に植物が生えているの？





ジオガイドは、伊豆大島ジオパークで
出会える景色や体験の奥にある
「ふしぎ」を楽しく読み解くお手伝いをしています！



伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドが行うジオツアー 常時受付中！
半日1名 ¥5,000（税別）から／ 2名様より催行（※2025年7月現在）
詳しくは伊豆大島ジオパーク公式ホームページをご覧ください
https://izuoshima-geo.org/enjoy/guidetour.html

岡田港に着いたらまず寄ろう！



ジオステーションおかた港

船客待合所2階で伊豆大島ジオパークの基本情報＋最新情報が入手できます。到着の際はこれから巡る場所の確認に、お帰りの際は次回ご来島の計画づくりにご活用ください！

開館／当日の出帆港が岡田港の日の9:00頃から16:00頃まで
（船の運航時刻により変動あり）

伊豆大島ミュージアム ジオノス

火山噴火が生んだ伊豆大島。そこに息づく生きものたち、受け継がれた暮らしや文化。それらが紡ぐ物語やつながりを楽しく学べます！

開館／10:00～16:30　※最終入館16:00
※東京発大型船が就航予定の翌日は9:00開館
休館／水曜日（祝日の場合は翌平日）
料金（一般）／大人820円、子ども410円
詳しくはジオノス公式ホームページをご覧ください。
https://izuoshima-geonous.org

フシギの答え合わせ！



登る前に行ってみよう！



三原山山頂ジオパーク展

開館／土・日・祝　9:30～15:00
外輪山展望台すぐそば
「展望避難休憩舎」1階・ガイドさん常駐！

ジオフード GEO FOOD

くさや

クセになる旨みをもつ「くさや」は、極めて貴重であった塩と水を繰り返し使用するうちに生まれた発酵食品。離島の厳しい暮らしに根付く、まさにジオフードです。



アシタバ

セリ科の植物。「摘んでも明日には新しい芽が出る」と言われるくらい強い生命力が特徴。野菜の栽培が難しかったこの島の風土に適して古くから自生し、島民にとって貴重な野菜でした。



牛乳

かつて大島は「ホルスタイン島」と呼ばれるくらい酪農が盛んな島でした。温暖な気候を好むホルスタイン種は、潮風を受けミネラル豊富な青草を食み、元気に育ちました。

伊豆大島ジオパークへのアクセス ACCESS

船の旅を楽しむなら

東京・竹芝　最短1時間45分（高速ジェット船）
　　最短6時間（大型客船・夜行の場合）
熱海港　最短45分
→ 大島 元町港 or 岡田港

お問い合わせ・予約　東海汽船
03-5472-9999

伊豆大島には **元町港** と **岡田港** の二つの出帆港があります。船がどちらに着くかは、天候・海況によって **当日の朝** に決まります。
季節により［久里浜］［館山］［伊東］［稲取］［横浜大さん橋］経由航路も運航しています。

飛行機の旅を楽しむなら

調布飛行場 → 25分 → 東京大島 かめりあ空港

お問い合わせ・予約　新中央航空
0422-31-4191



島内の交通手段・宿泊について

お問い合わせ／大島観光協会（8:30 ～ 17:00）
TEL：04992-2-2177

伊豆大島ナビ 島内交通

発行　伊豆大島ジオパーク推進委員会
事務局／〒100-0101 東京都大島町元町字神田屋敷617
伊豆大島ミュージアム ジオノス内　TEL：04992-7-5301
E-mail：c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp（2025年7月版）

目からウロコの火山島！

伊豆大島ジオパーク

IZUOSHIMA GEOPARK



秘密の入口みーつけた！



海中溶岩、お魚団地!?



春夏秋冬、花のリレーを楽しんで♥





火山の島にはハートがいっぱい♡

山頂エリア



11 赤ダレ

真っ赤な渓谷

近くの火口から
溶岩が降り積もった後、
侵食されて
赤い崖が現れました。
谷の先に広がる海には
伊豆諸島も望めます。



1 外輪山展望台

三原山の黒いスジは、
1986年の噴火で火口から
あふれ出た溶岩流の跡です。

2 江戸時代のパホイホイ溶岩

粘り気の少ない溶岩が
流れ出て、このような
なシワをつくる
ことがあります。



3 1986年噴火の溶岩流先端

火口からあふれ出た溶岩は
山腹を下ってここで止まってくれました。





5 お鉢めぐり

なんと、360度の海、富士山、伊豆半島、
伊豆諸島、房総半島、三浦半島が見えるんです!







地下にあるマグマで
水が温められ、
白い湯気が
上がっています。

4 マグマのしぶきがくっついた岩

川を流れるイカダのように、火口から
溶岩流に乗って運ばれてきました。



6 三原山中央火口

1986年噴火では、マグマが
この穴を満たしてあふれ出ました。





溶岩の粒や
火山灰の黒い砂漠

8 裏砂漠

強い風が植物の種や
芽生えを吹き飛ばし、
この景色が
保たれています。

7 割れ目噴火口

マグマが大地を割って、赤いしぶきを噴き上げました。







9 ジオ・ロックガーデン

ふしぎな形の黒い岩が
ニョキニョキと並んでいます。

10 再生の一本道

厳しい環境に適応したパイオニア
植物から命の再生が始まります。
次第に草原となり、木が生え、森となる
数百年間の物語をこの一本道でたどることができます。



イタドリの群落













伊豆大島のお花

Flower

5月にはオオシマツツジ、7月には
サクユリが見事な花を咲かせ、黒と
緑の原野に彩りを添えます。





外周エリア

巨大バウムクーヘン

4 地層大切断面
約2万年間に起こった
大噴火、約100回分の
噴火の歴史です。



1 赤禿 あかっぱげ

燃えるような赤い溶岩と青い海との
コントラストが鮮やかです。



2 長根

山腹で起きた割れ目噴火の
溶岩流が沢を下って海に注ぎ、
その後、硬い溶岩だけが
岬として残りました。



5 砂の浜 さのはま

沢を流れて細かくなった溶岩や火山灰が
集まってできた黒い砂浜です。



3 元町 浜の湯 ほか

1986年の噴火によって、
元町地区の地下水が
温泉に変わりました。



6 イマサキ

波で削られた崖には、激しい噴火で飛んだ
大小さまざまな石が現れています。



7 トウシキのボムサッグ

激しい噴火で飛んできた石が
地面にめり込んで残りました。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、
同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
（承認番号　平29情使、第419-GISMAP39996号）

伊豆大島を
ぐるっと一周!



8 波浮港 はぶみなと

大津波で海とつながった火口湖を、
平六さんたちが良港に整備しました。





9 カキハラ磯

周辺の地面には火山灰の丸いカタマリ
（火山豆石）がたくさん見つかります！



筆島の左手の
崖に見える灰
色のスジは、
マグマが大地
を割り入った跡
（岩脈）です。



10 筆島

古い火山が波に削られ、
中心部にあった硬い岩が残りました。



伊豆大島のお花

Flower

温暖多雨で水はけのよい土地を好み火山ガスにも強いヤブツバキは、縄文時代から島に自生していました。さらに島の人々は、防風林、炭、油などに利用するためツバキを植え、大切に育ててきました。



島ならではの強い潮風にも負けない植物たちが年間を通じて海岸線を彩ります。





4月、火山の荒地でもたくましく生きるオオシマザクラが
島の斜面を白く染め上げます。



11 桜株 さくらっかぶ

噴火を繰り返す島で生き抜いた桜の巨木は、
かつて航海の目印でした。





伊豆大島ジオパークで生きている地球を体感しよう！

VOLCANO

伊豆大島　誕生物語

伊豆大島の歴史は、海に並んだ古い火山の物語から始まります。

今から数10万年前のこと…
このあたりには3つの火山がありました。

3つの火山はやがて活動を終え、波に削られ次第に小さくなっていきました。

そして数万年前、すぐ近くの海底で新たな噴火が始まりました。
伊豆大島をつくった火山の誕生です。

新しい火山は何度も噴火を繰り返し、3つの古火山の残骸に覆いかぶさりました。

その後も噴火を続け、大きなひとつの火山島になりました。



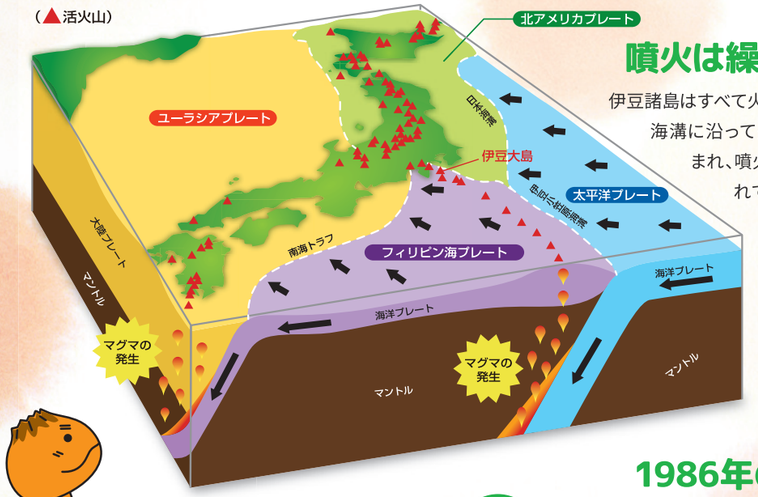
およそ1700年前、山頂で大規模な水蒸気噴火が起こりました。

大量の岩石や土砂が島を覆うように流れ下り、山頂部が陥没して現在のカルデラができました。



1777年からの大噴火では、中央火口から大量の溶岩が噴き上がり、三原山が現在の姿になりました。

その後はカルデラの中で溶岩流を流す噴火を繰り返してきました。1986年に起こったカルデラの外での噴火は、およそ560年ぶりの出来事でした。



噴火は繰り返す

伊豆諸島はすべて火山島です。海溝に沿って火山列が生まれ、噴火が繰り返されています。



1986年の噴火



1986年11月15日
山頂で噴火が始まりました。



1986年11月19日
溶岩がカルデラへとあふれ出しました。



1986年11月21日
カルデラの北部、続いて北西山腹で割れ目噴火が起こり、溶岩が沢を流れ下って民家まで約200mに迫りました。これがきっかけとなって、全島民が1ヵ月間、島外で避難生活を送りました。

御神火（ごじんか）と共にある島の暮らし

火山はときに災害をもたらし、平穏な日常を脅かすものではありますが、噴火している一時を除けば、島民の暮らしに欠くことのできない恵みを与えてくれます。伊豆大島では古くから、噴き上がるマグマや赤く染まった空を「御神火（ごじんか）」と呼び、敬い慕ってきました。



火山の見張り番 **火山観測機器**

伊豆大島では、国や大学などが、地震計、傾斜計、監視カメラなどの火山観測機器を100基以上設置し、気象庁が山の様子を24時間監視しています。もし火山に異常があれば防災行政無線でお知らせします。しかし、伊豆大島火山は活火山であり、突発的な現象には注意が必要です。火山活動の最新情報は気象庁のホームページでご確認ください。

伊豆大島の火山活動状況（気象庁）

ジオパークで『地球（ジオ）と人とつながり』を楽しもう！

大地の成り立ちや特徴を知り、その地域だからこそ育まれた景色や生き物、人々の営みの歴史を読み解き、『地球（ジオ）と人とのつながり』を五感で楽しめる場所、それがジオパークです。私たちはこの島で皆さまと一緒に、目の前の風景の奥にある地球（ジオ）の物語を味わいたいと願っています！